

風しん対策



- 風しんは小児の場合、通常あまり重くない病気ですが、妊婦、とくに妊娠初期の女性が風しんにかかると胎児が風しんウイルスに感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど、まれに「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しん抗体検査・予防接種で 未来の赤ちゃんを守れます



道民の
みなさまへ

POINT

妊活の第一歩

- 妊娠した女性（特に妊娠20週頃まで）が風しんを発症すると、赤ちゃんにも感染し、難聴、心疾患、白内障などの障がい『先天性風しん症候群』が出る可能性があります。



妊娠中は
予防接種を受けることができません



風しん抗体検査 + 麻しん風しん混合ワクチンの接種

風しん抗体検査を受けていただき、検査結果に応じて予防接種をご検討ください

- 接種後2カ月は避妊が必要です
- 接種回数は子どもの頃の接種を含め2回です

女性は
妊娠前に

風しん抗体検査を受けていただき、検査結果に応じて予防接種をご検討ください

- お二人の大切な赤ちゃんが先天性風しん症候群にならないように、**妊婦の周りにいる男性も予防接種**を受けることをご検討ください

成人男性

風しん抗体検査を受けていただき、検査結果に応じて予防接種をご検討ください

- 妊婦は予防接種を受けられません
- 1歳児（第1期）と、小学校入学前1年間（第2期）は定期接種を受けましょう

妊娠中の
女性の家族